

別紙

■学部指定単元 AI 学習プログラム（通称：UNITE Program）<https://www.ritsumeai.ac.jp/uniteprogram/>
AI 教材「atama+」を活用して、各学部が指定する教科の単元を学習し、単元ごとの修得認定試験に全て合格・修了すると、総合型選抜(AO 選抜入学試験)の出願資格を得ることができます。不合格となっても期間中は何度も繰り返しチャレンジが可能。本プログラムの学習結果は、入試の可否には影響しません。プログラムの出願は無料。入試合格者には入学前教育において、より高度な学習内容を提供。

※学部での学びにおいて、特に重要な単元を指定し学習・修得することを出願要件に取り入れた入試、また、AI 教材「atama+」を活用した入試は全国初。

<実施学部・対象教科>

経済学部(経済専攻)、スポーツ健康科学部、食マネジメント学部:「数学」
薬学部:「化学」

<対象となる入試> ※募集要項は6月下旬公開予定

2024年度入試(2024年4月入学)総合型選抜(AO選抜入学試験)

経済学部(数学重視方式)、スポーツ健康科学部(CREA方式 数学的素養型)、食マネジメント学部(プレゼンテーション方式 基礎数学型)、薬学部(課題探究型方式)

<対象>

2024年3月31日までに高等学校等を卒業・卒業見込みの方

<学習内容>

パソコンまたはタブレットを用いて、高等学校の「数学」または「化学」の全単元(atama+内では「数学」78単元・「化学」45単元)のうち、学部が指定する単元(5~8単元)を「atama+」で学ぶ。所要時間の目安は、1日1時間学習した場合、半月~1カ月程度(単元ごとの習熟度により個人差あり)。

AIによって個別最適化された自分専用カリキュラムで指定単元を効果的に学習。苦手な単元があった場合、その単元の練習問題を繰り返し解くのではなく、AIがその根本原因をつきとめ、苦手単元を理解するための土台となる過去の単元にさかのぼり、理解度を高める。

<学部別指定単元> *所要時間は統計値。実際に要する時間は該当単元の習熟度により個人差あり

【経済学部】

科目	単元分野	学習所要時間
数学 I	データの分析(データの散らばり)	5~6 時間
	データの分析(データの相関)	2~3 時間
数学 A	場合の数と確率(確率)	4~5 時間
数学 II	指数と対数(指数・対数の応用)	1~2 時間
	整式の微分法(微分法の応用)	3~4 時間
	整式の積分法(積分と面積)	5~6 時間
数学 B	数列(Σ の計算)	3~4 時間
	数列(いろいろな数列)	3~4 時間
合計		26~34 時間

【スポーツ健康科学部】

科目	単元分野	学習所要時間
数学 I	データの分析(データの相関)	2~3 時間
数学 A	場合の数と確率(確率)	4~5 時間
数学 II	整式の微分法(微分法の応用)	3~4 時間
	整式の積分法(積分と面積)	5~6 時間
数学 B	空間ベクトル(ベクトルと図形)	1~2 時間
合計		15~20 時間

【食マネジメント学部】

科目	単元分野	学習所要時間
数学I	2次関数(2次関数とグラフ)	7～8時間
	データの分析(データの散らばり)	5～6時間
	データの分析(データの相関)	2～3時間
数学A	場合の数と確率(場合の数)	2～3時間
	場合の数と確率(順列)	3～4時間
	場合の数と確率(組合せ・組分け)	3～4時間
	場合の数と確率(確率)	4～5時間
合計		26～33時間

【薬学部】

科目	単元分野	学習所要時間
化学基礎	物質の構成(物質と化学結合)	2～3時間
	物質と化学反応式(濃度計算)	1時間
	化学反応(酸・塩基、中和反応、酸化・還元)	5～6時間
化学	物質の状態と平衡(状態変化と気体の性質、混合気体の圧力、蒸気圧)	8～9時間
	物質の状態と平衡(結晶の構造、固体・気体の溶解度、溶液とその性質)	
	物質の変化と平衡(化学反応と熱、反応速度)	7～8時間
	物質の変化と平衡(化学平衡の基礎、水溶液中の化学平衡)	
	無機物質(非金属、金属:典型元素)	1～2時間
	有機化合物(分類と分析、脂肪族炭化水素、脂肪族化合物、芳香族化合物)	4～5時間
	天然高分子化合物(アミノ酸とタンパク質、糖類・その他)	1～2時間
合計		29～36時間

<学部で役立つテーマ例と、指定単元との関連>

■経済学部【経済統計、計量経済学、社会調査論、環境評価システム、行動経済学、ファイナンシャルエコノミクスなど】

データ分析能力をさらに高めていく科目、データ分析能力を経済社会の課題とつなげるための多様な分野を学ぶ科目、さらには立てた問いをデータで検証するプロジェクト志向の科目などの履修する機会がある。データ分析のリテラシーとなる高校数学、データで広く経済に関する事象をとらえ、入学後、これらのリテラシーを身に付けて、自ら問いを立て、データを用いてその仮説の当否を検証できる人物への成長を目指す。

■スポーツ健康科学部【スポーツバイオメカニクス、スポーツ医工学、スポーツ生理学、トレーニング科学、データサイエンス、ヘルスプロモーション、スポーツマーケティングなど】

入学後、遺伝子、人体の生理的メカニズム、動作解析、人間の行動や集団心理、またまちづくりといった多岐に渡る教育と研究を通じて、人々の健康と幸福、世界の平和を創造することを目指す。学部の学びにおいて、人や社会を見つめる「洞察力」が必要。さらに、何が問題で、どのような課題を克服すべきなのかといった意思決定の質とスピードを上げるためには、論理や関係性を適切に捉え、それを裏づけるデータを読み解く力が必要となる。

■食マネジメント学部【食と健康・栄養、食の消費・摂取行動、マーケティング、食品開発、官能評価、財務会計など】

入学後、経済学・経営学を基幹としたフードマネジメントの分野を中心に据えた上で、それを支えるフードカルチャー、フードテクノロジーを合わせた文理融合3分野を学ぶ。データを収集・分析し、いかに論理的に説明するかが、食の学問でも問われる。持続的な感染症対策気候変動対応などを通して、新しい食生活スタイルが形成され世界的な食ビジネス構造変化が起きている今、食に関わるデータを扱う重要性はますます高まっている。データリテラシーと論理的思考能力を活かして、食への関心・学ぶ意欲、行動力につなげる。

■薬学部【薬のかたちと機能、薬の溶解と吸収、製剤、医薬品の合成、細胞の膜電位、抗体医薬品など】

出願までに、多様な様式の医薬品の構造と性質を学ぶ上で基礎となる化学の重要単元を全て学習し、合格者は引き続き、生物と物理の最重要単元の学習を継続する。

医薬品の開発や病院や薬局で薬剤師を目指すためには、低分子化合物や生物製剤に関する専門知識など、化学と生物を幅広く学ぶ必要がある。物理は、放射線を用いた検査や治療、CT スキャンや MRI など医療機器の基礎であり、医薬品と標的タンパク質の相互作用の理解のためにも必要となる。このような高度化する医薬品や医療について学ぶために、理科の基礎的な知識があり、科学的な思考力を持つ必要となる。

【参考】2022年12月13日配信プレスリリースより（一部抜粋）

■atama+ 修得認定試験画面 問題イメージ



■2023 年度入試実績

2023 年度入試においては、経済・スポーツ健康科学・食マネジメント学部が数学の単元を指定し、当プログラム・AO 選抜を実施しました。

	新 AO 入試 募集人数	プログラム 受講者数	プログラム 修了者数	新 AO 入試 志願者数	新 AO 入試 合格者数
経済	10 名	67 名	31 名	27 名	17 名 (1.59 倍)
スポーツ 健康科学	15 名※(5 名程度) ※AO入試 全 4 方式含む	62 名	39 名	36 名	7 名 (5.14 倍)
食マネジ メント	20 名※(10 名程度) ※AO 入試 全 2 方式含む	98 名	70 名	65 名	13 名 (5.00 倍)
合計	25 名	227 名	140 名	128 名	37 名 (3.46 倍)

■合格者の声(一部抜粋)

Q,他の AO 入試もある中で、この入試方式を選択した理由、修得まで継続できた理由について

- ・数学が好き、数学が得意で強みを生かせると思ったから
- ・将来数学の知識を生かした研究や職業に就きたいと思っていたから
- ・志望学部の学びに数学的素養が必要となることを知り、入学前にしっかり学べる点に魅力を感じたから
- ・志望学部に必要な数学の素養を知ったが、商業高校で数学を十分に学べていなかったから
- ・自分のペースで部活動との両立が行いやすく、目標が明確にあるので継続できた

Q.受講後、数学や指定された単元に対する意識や実力に変化はあったか

- ・「データの分析」の単元で分からなかった概念の部分が新しく学べた
- ・学校ではあまり触れなかった単元もあったため、新たな知識が増えた
- ・指定単元の範囲の模試やテストの成績が良くなった
- ・今まで数学を何に使うか理解出来なかったが、経済学に繋がっていると考えると数学に対する意識が変わり、意欲的に学ぶようになった
- ・数学を解くのが楽しくなった、強みになったと感じた

■立命館大学と atama plus 株式会社について

2020年12月、立命館大学などを運営する学校法人立命館と atama plus 株式会社で「新しい高大接続と入試の在り方を考える共同研究会」を設立。「附属校生の学内推薦合格後の基礎学力定着モデル構築」「学習歴を踏まえた新たな入試企画の検討」「オンライン入試のプラットフォームの開発」を研究テーマとし、高校と大学の接続や入試のあり方を検討。UNITE Program と本入試はその成果のひとつとして開発した。